30 年度第 2 回そだつ部会議事録

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 2018 年 6 月 26 日（火）10：00～ |
| 場　　所 | 地域連携交流施設　1 階　地域活動室 |
| テーマ | 1、 本日参加メンバー<br>2、 協議課題<br>3、 その他<br>4、 次回開催日の調整 |
| 内容 | 1．参加メンバー：9 名<br>2．協議課題<br>〇第 1 回まもる部会について<br>今年度より、新計画にあわせ、まもる部会を新設。<br>5 月 7 日に第 1 回として、相談体制の充実をテーマに、総合相談、なんでも相談、3 障害相談員そだつ、くらす、はたらく部長等が集まり、協議をしている。<br>また、県の防災モデル事業に伴う播磨町の住民向けの研修が行われる。誰でも参加可能。<br><br>〇30 年度の重点項目について<br>まもる部会<br>相談体制の充実<br>『総合的な相談窓口のネットワーク図の作成』<br>そだつ、くらす、はたらくでそれぞれに関連する相談窓口、サービスを調査し、まもる部会にて集約する。<br><br>そだつ部会<br>●発達障害の理解<br>今年度の全体研修会は発達障害についての内容となるため、これをどのように伝えればわかりやすいかをそだつ部会にて検討・企画する。<br>第 1 回(8 月)<br>・保護者の理解<br>・支援者の理解<br>・保護者の障害理解<br>・啓発するためチラシを工夫する<br>・行動原因を理解<br>・一緒に勉強したい<br>第 2 回<br>・周辺住民全体の理解<br>・周辺住民に伝えたい事<br>・自分たちで先生と打ち合わせ<br>・幼児期・学齢期の子どもの特性と配慮<br>・走ってしまう、不器用　ものにあたる　イライラ<br>・伝わらない子が居ることの理解<br>・「普通に見える」という言葉 |

・イヤーマフをつけている子についての説明
・障害のある子の保護者の言葉かけ
・見え方が違っている
・聞こえ方がちがっている。「耳ふさぎ」のわけ
・親も努力しているけれど、わかってもらえない
・誰に対してどんなメッセージを出したいか
条件：いきいきセンターのキャパ　100～150 人　民生委員・関係者・当事者保護者・一般住民
ニーズ：発達障害を持つ親の知りたい事。
社会的要請：すべての人に知ってもらい、理解の促進
思い：理解を進め、周りの人の対応をかえていきたい　　知ることで変わる
「身近にこういう人いませんか？」「気になる子」「声かけはどうあるべきか？」スーパーで…等
何かを見かけたら(スーパーでころがる等)→その行動の理解、その保護者への理解
本人を知らない、通りがかりの人→声かけの方法
本人についてよく知っている人→特性にあわせた声かけ→「音」が嫌な子　短い言葉で肯定的に声かけ　等
・周りの理解につなげる、周りの人の対応を提案する。

●そだつネットワークの調査
・『子育てに悩んだら』　今年の 4 月改定　そういったものがあることを改めてお知らせしたり、現状を洗い出したりして、足りないと思う所を埋めていく。
・そだつマップの発展形として、事業所から保護者へのサービス紹介の場など作るべきか？通っているところなら保護者会等があるが、そうでなければパンフレット、HP 等からの情報しか得られない。国の制度について聞く場などもあれば

〇かけはし CAFÉ について
・いつ頃、どこで、どのように行っていくか。かけはしの内容のブラッシュアップはできないか、他の自治体の同じようなツールはどうなっているのか
・他の市の良い所を抽出。書く人が主体になって考えていけたら実情に沿う？
・書けてない人が多い。書く意図が分からない人。書いたけど活用できていない現状。
・交流の場をメインにするか、書き方をメインにするか、平日か土日か
・支援のための連携のツールとしてのかけはし

実働チーム(部員外から応援を呼んでもいい)
〇発達障害の理解チーム：浅原さん、高津さん、小平さん、当事者家族
〇そだつネットワークの調査チーム：小平さん、福田さん、安川さん、当事者家族
〇かけはし CAFÉ チーム：小平さん、一井さん
チーム毎に部会の際に成果、進捗を持ち寄り、全体に報告・共有して意見をもらう

3．その他
・全体研修会参加・会場設営・原状復帰のお願い

| | |
|---|---|
| | 第１回　8 月 10 日(金)　13 時～播磨町健康いきいきセンター<br>講師：兵庫県立尼崎総合医療センター　石原剛広氏<br>協力いただける方には会場設営と原状復帰をお願いする。<br><br>４．次回開催日の調整<br>　8 月 7 日(火)13：00～地域連携交流施設　1 階 |